

# 平成26年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

## 1 日 時

平成26年11月17日（月） 午後2時～4時

## 2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

## 3 出席者

（委員） 神野委員、早川委員、関委員、瀬崎委員、林委員、古川委員、大澤委員、竹下委員  
（事務局） 生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、文化振興班主査、  
主任主事3名

## 4 議 題

- （1） 平成27年度 千葉市芸術文化振興事業補助金について
- （2） 千葉市文化芸術振興計画（現行）の総合評価及び千葉市文化芸術振興計画（新）策定に関する基礎調査の進捗状況について

## 5 議事の概要

- （1） 平成27年度 千葉市芸術文化振興事業補助金について  
千葉市文化芸術振興事業補助金の補助事業選定にあたり講評・意見交換を行った。
- （2） 千葉市文化芸術振興計画（現行）の総合評価及び千葉市文化芸術振興計画（新）策定に関する基礎調査の進捗状況について  
千葉市文化芸術振興計画（現行）の総合評価について報告し、それを踏まえて千葉市文化芸術振興計画（新）の策定について意見交換を行った。

## 6 会議経過

### 【神野委員長】

みなさんお忙しいところご出席いただきありがとうございます。

今日は振興会議の第2回ということで、先ほど事務局の方からも説明がありましたけれども、補助金の審査がありますので、それについての内容と、文化芸術振興計画の総合評価、新しいものの策定に関する基礎調査について色々と議論をしていく、という話になろうかと思えます。

文化芸術に関して、今までは割と趣味というか、高尚な文化的な趣味という位置づけが日本においても結構強かったですけれども、例えばオリンピック、特にロンドンはその傾向が強かったと思えますけれども、ロンドンオリンピックの時には、要はただのスポーツの祭典ではなくて、その祭典をきっかけに、さまざまな人々がお互いを理解していくと。そのときにスポーツを通じてというのが第一になるわけですが、それと並んで文化による祭典という側面も非常に強かったオリンピックでした。

東京が招致を計画したときも、ロンドンも非常に意識をしておりまして、非常に多くの予算を割いて文化発信プロジェクトというものを熱心に取り組んでいます。おそらくは2020年に東京でオリンピックが開催されるときには、千葉市や千葉県もなんらかの形で文化発信というところでの協力を求められることにもなろうかと思えますし、ただ単にそれは文化芸術を振興するというだけじゃなくて、お互いに共生をしていくとか、新たな経済的な価値を生み出していくとかそういうことにも繋がっていく。そういう位置づけとしての文化芸術というのが、最近は非常に注目されているわけです。

そういう時代にあって、千葉市の予算の状況というのは大変厳しいものがありますけれども、この会議を中心に非常に前向きな議論をして、未来に繋がるような内容というものを提言できたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。よろしく願いいたします。

まず議題1の「平成27年度千葉市芸術文化振興事業補助金について」です。こちらの議題につきましては、非公開となっております。事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

<< 非公開議事につき中略 >>

### 【神野委員長】

では議題2「千葉市文化芸術振興計画（現行）の総合評価および千葉市文化芸術振興計画（新）策定に関する基礎調査の進捗状況について」に入りたいと思えます。

こちらにつきまして、事務局より説明をお願いします。

<事務局説明③>

### 【神野委員長】

今日やることはどちらかというと、さまざまな意見を言っていただくということになろうかと思えます。

現行の千葉市文化芸術振興計画というのは、皆さんもお気づきのとおり、非常に総花的であって、非常に幅広い目標を設定してしまったがために、非常に輪郭がぼけた風になっているかもしれません。そのせいもあって、当然点数をつけていけば、満遍なくやっているということもありますし、やりきれなかったところも出てきた、ということもあって、0点のところもあり、概してだいたい2点、総合評価2点ということになっているんですけれども、まず点数に関して質問というか疑問がある場合には、それは事務局のほうにお答えいただくということとともに、この項目に関して、例えば本当はここをもっと重点的にやるべきだったんじゃないかとか、あるいはこの項目がないんじゃないか、あったほうがよかったんじゃないかとか、あるいは、これは市民意識調査の結果が出ていないので、このようなことを聞いている、という事を踏まえたいうえで、ちょっと何か関連することでご提示いただくとか、そういう形になるかなと思います。非常に広範囲にわたっているので、ご意見なかなか言いにくいかもしれませんが、本当に思いついた、思い立ったところから、ご意見ご質問をいただければいいんじゃないかと思います。それではよろしく願いいたします。

【早川副委員長】

さっそく質問なんですけど、この表の中に企業メセナ活動というのが0になっているんですが、これはどういうものを言うのか忘れちゃったんですが、どういう風にして評価なされたんですか。これは市役所の活動がゼロだったということなのか、千葉市内の企業の活動がゼロだったという評価なんですか。

【高石文化振興課長】

これは千葉市で行われている事業について調査をしているものでして、民間の活動までは調査できていないという状況です。

【早川副委員長】

そんなに千葉市全体としては悲観的でもないと思うんですよね。わかりました。

【神野委員長】

いま副委員長がおっしゃられたことというのは、おそらく市がつなぎ手になってそういうものを促進していけたらという計画だったと思うんですけど、そこまでふみこめなかったということですよ。

【早川副委員長】

市役所が計画したんだけど企業が動かなかったよということだと我々にも責任があると、こういうことです。

【古川委員】

これはあくまで記者ではなく委員としての質問なんですけども、外郭団体の統合の話がずっと出てまして、応えづらいところもあるかもしれないんですけれども、市文化振興財団の機能強化の充実が3点ついてるんですけれど、今年、本年度に関しては、相当市との距離が出始めているというのがすごく肌で感じられるんですね。というのは、昨年度までは市の方でも積極的に広報されていた部分があって、こ

ちらも記事書きやすい部分が、文化振興財団の主催事業はあったんですけど、残念ながら本年度に入って市からの広報がほぼ、なくなったとまでは言いませんけど、かなりトーンダウンしていて、文化振興財団のほうで独自に我々の方に来るんですけど、ちょっと形が相当、去年と今年で変わっているというのはすごく感じているところなんです。これは平成25年度3点ということなので、今年度どういう評価なのかはわかりませんが、外郭団体の統合の部分でこの財団も対象になっているようですし、ここの委員からも今回外れていますし、私結構ここ良いことやっていると思ってるので、ここの市との関係というものをどう考えてるのかなというのをちょっとお聞きしたいんですけど。

【丸島生活文化スポーツ部長】

確かに千葉市は今外郭団体の統合を、今まだやっています。当然文化振興財団もその土壌には上がっているという状況はありますが、ただそれだからといって、去年と今年で関係性が変わったという我々の認識はないんですが、周りの方はそのように感じられるのかもしれませんが、事業数的には減ってないですし、むしろ金額的には、予算額的にはソフト事業は増えています。ですからそれは、どういったところがそういう風に見られてしまうのか考えにくいのですが、統合があるから財団側と市側の関係がギクシャクしているというようなことはない、と我々は思っています。ただ、事業内容が、財団側が最近、今までのやり方とは変わってきた面もあったりして、その辺が違和感があるのかもしれないと思っています。ただその統合の関係で市と財団の関係がギクシャクしているわけではありませんし、むしろソフト事業的には少し、少しですが、昨年、今年と少しずつ予算を増やしていますので、先ほどみなさん、委員さんがおっしゃったように、我々は宣伝というのが非常に下手でして、その辺がうまく伝わっていないのかなというのと思っています。特にそのような意識はないです。

【古川委員】

ひとつだけ具体例を挙げるならば、ついこの間やったばかりですけども、ミュージアムウォークというのが、昨年は美術館で仏像展があったというのもあって、非常に大々的で、市のほうも相当熱心にプッシュしてたと思うんですけど、今年に関しては落語がテーマだったということで、早い段階から市の方でPRしてればいくらかでも募集をかけられたと思うんですけど、前回の、昨年のもに比べると、市からの宣伝というものはほとんどなかった。ギリギリ締め切られたあとにこんなのをやりますよというのがちょっと出ただけであって、相当、昨年に比べると、文化振興財団の方がどう考えていたかわかりませんが、文化振興財団の方のアプローチもちょっと弱かったっていうのもありますし、全体として今回のミュージアムウォークについては、結果的ですけども宣伝不足になってしまったのかなという気がしています。一つの例ですけど、そういうことがいくつかあったということは確かどころです。

【丸島生活文化スポーツ部長】

承知しました。それは確かにおっしゃるとおり。実は文化振興財団側は、そういうのは市が率先してやるべきだっていう考えを持っている人がいて、その辺が我々と意見の違うところなんです。我々は、いやそうじゃないでしょ、文化振興財団こそそういう事業を財団としてやるべきでしょ、って思っている。その意見の違いもあって、なかなか今年度の事業がうまく計画できなかったっていうのがあって、中

身が固まらなかったと。結果的に遅れ遅れになってしまって、そのようなことになってしまった。そういった事業が実はそれだけじゃなくていくつかあります。この辺はお互いにうまく話し合えば改善していく内容だとは思っています。十分我々も心してかかりたいと思いますので、申し訳ございません。

【古川委員】

感じていますので。

【伊原文化振興課長補佐】

秋に事業があまりにも多すぎて、ジャズがあったり、ミュージアムウォークもあったり、サンドアートとかもあったので、そこらへんが担当者と、こっちはいろいろ意思疎通はしているつもりなんですけど、発信していくところが遅れてしまったようなところは確かにございます。申し訳ありません。

【神野委員長】

私も昔文化施設にいたことを思い出しますと、中の意識と行政の担当課の意識、あるいは市民の意識っていうのは微妙にズレがあって、おそらくここで3をつけられているのは、その意識のズレを毎年ちょっとずつ埋めてきたっていうことが多分すごくあるんじゃないかと思うんですね。たしかに事業の中身とか、ちょっとずつ変わっていて、非常に魅力的なものが増えてきたというのは私も感じています。けれどもまだ、ズレはある。そのズレとズレがあんまりおっきいとき、っていうのは、多分それが顕在化しちゃうってことなのかな、というのを今のお話しでなんとなく想像しました。けれども基本的には、文化振興財団自体がものすごく自立的な能力と基盤を作っていくっていうことが、おそらく市としては一番希望していることで、そのために叱咤激励さまざまなことをして、それはそれなりに成果を上げているという風な評価をされているということとして理解してよろしいですよ。

【丸島生活文化スポーツ部長】

はい。文化振興財団は一生懸命、特にアーツステーションとかそういった新たな機能をちょうど23年度ごろから、こういった事業を始めてきましたので、そういったものを評価して、機能が充実しているという評価をさせていただいております。

【神野委員長】

他にはいかがでしょうか。

【大澤委員】

今の財団のことなんですけれども、ここで出しているのかよくわからないんですけど、私も財団の方にすごくよく懇意にさせていただいていろいろいつもお話しするんですけど、指定管理者制度がいろいろな動きの部分でかなりネックになっている。これは全国的な話なんですけれども、その部分もちょっとあるかなと思っております。指定管理者制度はとて、個人的に、オペラ業界はみんなそういう風に言ってるんですけど、よくない、と。そこをもう少しうまくできたら、もう少しそこら辺がスムーズにいく、財団ももっと動きが軽やかになるだろう、と思います。あともう1点は、今もおっしゃってた、

発信がうまくできていなかったというところが、今このことだけでなく、すべての千葉市の文化振興に大きな影響を与えていると思いますので、その発信の部分というのをもっと。例えば、市政だよりの枠がとれないんだったら、財団のほうで全部取り仕切っている「あでるは」をなんとか市のほうに戻すとか、いろんな方法があって、とにかく市民に発信する、伝わるということが一番、大原則だと思ってます。文化振興においてですね。

【神野委員長】

指定管理の件と、情報発信の件ですね。指定管理に関しては、いろいろな自治体でいっせいに取り組んできて、今見直しをし始めている自治体も多いかと思いますが、千葉市としては、これについての方針というのは特に何かございますでしょうか。

【高石文化振興課長】

公共施設については原則指定管理という形にはなりません。一部、たとえば美術館とか、一定の団体しかできないようなものについては非公募というようなことはあるんですが、これについても、今後千葉市の中では検討されていかなければならないテーマだとは思っています。

【早川副委員長】

極めて初歩的な質問ですが、指定管理っていうのは、基本的には、県の持っている施設とか、そういうものを管理するというので、たとえば事業を任せるってときは、受諾とか委託とかそういう範疇になると。だからさっきの関連で、文化振興財団は指定管理制度があるから少し動きが鈍いって、それはちょっと違うんじゃないかと思ったということなんです。文化振興財団が、たとえばオペラの事業をお前やれよ、って言われて、わかりました、って受託してるならわかるんですけども。なんかちょっとさっきの説明じゃ十分理解できなかった。

【大澤委員】

じゃあもう少し付け足すと、指定管理者というのは何年か決まった単位でまた公募して、安く管理をできるというところに出していくというような形、ということは、千葉市文化振興財団が指定管理者から外れる可能性もあるということなんです、今後。そうしたときに、さっきおっしゃってた話を聞いていると、千葉市と財団とがもっとうまく話をして、文化の振興の事業を活性化していくには、安定的に財団が市と連携が取れる体制が必要ですが、指定管理者という危うい部分っていうのが、いつも財団の方はビクビクしてるというんですかね、次外れるかもしれないとか、あとその全体の予算で財団の方は見ているので、建物の管理プラス企画をしていくという、全部の予算の中で考えているので、かなりその辺がお金がかかるので、そっちに回さなくちゃいけない。建物も実をいうとかなり老朽化していて危ない状況なんですね。私も建築士なのでその部分はすごくよくわかるんですけど。事業のほうで縮小、できる範囲の中でやるにはどうしたらいいかって、結構大変な状況になっているので、千葉市がもっと市民に対して文化向上を目指して、芸術のそういった施設を利用して言うときに財団が手足になっているのであれば、指定管理者というような形でもう何年で切られてしまうかもしれない、どうのこうの、お金の心配だなんだっていうのが、今過剰に負担かかっているのではないかな、という、そういう意見

です。

【早川副委員長】

文化振興財団というのは、設立の目的があって、そのために財産を市が出して、この運用益で文化的な事業をやりなさいよ、ってできて、そこにたまたま施設の管理とかっていう仕事が入ったんであると思うんですね。だからこの契約が切れようが、指定管理者としてやっていようがやっけていまいが、振興財団の活動がおかしくなるということは、財団の経営陣がだらしないと、こういうことになりますね。そういうことになるはずですよ。全く関係ない第三者から判断すれば。

【丸島生活文化スポーツ部長】

副委員長のおっしゃる通りで、本来の財団の設立の趣旨というのはもちろんそうでございますが、ただ実体としては、大澤委員がおっしゃるように、指定管理者の収入が財団の運営に大きなウエイトを占めています。ですから結果として、指定管理者が取れなくなると多分財団はつぶれると思います。そういうような財団運営をしてきてしまった。日本全国の多くの財団がそうだと思うんです。という状況があって、おっしゃられるように財団は、みんなだいたいそうですけど、5年ごとの指定管理期間があって、次の5年が取れなかったらどうするんだっていう心配をしながら運営しているという状況があります。ただもう法律で決まっています、公共施設は指定管理者でやるか直営でやるか、どっちかしかないんです。そうすると、これはもうある程度やらざるを得ない、ということがあって、ただ、そうはいっても、先ほど課長が言ったように、美術館とか、同じ指定管理者であっても、ここじゃなきゃだめだよっていう理由があれば、非公募ですとできるような方策もありますので、そういった運用をしているところもあります。ただ現状の文化振興財団は、そういう非公募の施設運営ではなくて、公募という形で他と競争しながらやっている、というのが現状ではあります。

【大澤委員】

なので、結局美浜文化ホールは、千葉市文化振興財団が取れなかったんで、今東京の会社があそこに入ってやっているわけなんですね。

【丸島生活文化スポーツ部長】

実態は違います。

【神野委員長】

一緒にやっている形です。

【大澤委員】

共同体という形をとってます、はい。たしかにとってます。一昨年からでしたっけ。

【神野委員長】

提案段階からそれでしたよね。なので、最初からそう。

【丸島生活文化スポーツ部長】

あそこのメインでやってるのがそこです。

【神野委員長】

なかなか難しい問題なんですけど、例えばこれ美術館の場合にはたしかに専門性というのが高くて、要はコレクション格にしているというところ、たとえば千葉市の文化ホールがプロの楽団を運営していて、ということになると、多分指定管理の公募型っていうのはなじまないと思うんですね。けれども、公用化ってことが、高い専門性は必要ないよね、ということが残念ながらあります。全国的に音楽ホールの方は、それが非常に厳しいんですね。美術館には学芸員という専門職がいるけれども、音楽ホールには残念ながらそういう人材はいないんですね。そういう現実があって、でも行政との関係でいうと、やはりゆるくなっていくっていうことがあるので、それを非公募型というものは5年に1回約束をしましょうという形でやってるのが現実で、それは美術館にとっても、非常にある種大変な書類をまとめる作業があるんですけども、やっぱり自分たちの活動をちゃんと見るということに関しては、意味はあると思うんですね。音楽ホールの場合には、さっき部長さんがおっしゃったように、専門性をどこに見るか、たとえば人間関係があるからっていうところをどこまで評価できるのかって、なかなかこれは制度的には難しいっていうのもあって、そこで文化施設の運営というのはどういう形態で、っていうのは、これは正解はないんですけども、現状日本の方向性としては指定管理者制度をして、公募型で行くというのが現状で。私は県の文化施設の指定管理を審査したことがあるんですけども、審査をすると、やっぱり財団の提案って下手なんですよ、ハッキリ言うと。ゆるいんですよ。つまり、自分たちの今までの実績ということをずっと並べてきて、新しい提案があんまり見えないっていうところもあって、千葉市の文化振興財団がどういう提案をしてるのか私はわからないんですけども、やっぱりそうすると、取れなかったりすることがある。

【大澤委員】

その、あまりいい提案をしない職員っていうのは、結局市からの天下り、って言っちゃ悪いんですけども。

【神野委員長】

基本的には専門職の人達がやってるんですけど、やっぱり何十年もそこにいて、同じことを繰り返してきたっていう歴史があって、指定管理者制度って、お金を減らすことっていうのも当然あったと思うんですけども、同時に施設の活性化ということも課題としてあったっていうのも、現実にあったと思います。

【大澤委員】

私としては、市民の芸術が向上した地域になってもらえるかっていうところからみると、内情はわかりますけれども、千葉は遅々としてそこが進んでないわけなんですよ。申し訳ないですけども、財団の職員の能力は高い方もいらっしゃるんですけども、私も個人的にいろいろ知ってるんで。やっぱりそうでない方がニーズ的に言うとすごく多くて、財団の長になられる、トップになられる方は市から入って

来た方とかが、何年か交代でっていう状況で、やっぱりトップがそうであればそうなるし、トップの方によって年によって変わってくるっていうのはとてもあると思うんですけども。変な話、財団の話なんであれなんですけど、そういったところも職員を募集すればいいと思います。専門職、やはり企画する人間が素晴らしくなければ市民には良いものを提供できないので。武蔵野市でしたっけ、あちらは自らいろんなアーティストを呼んで来たりとか本当に素晴らしい企画をなさってらっしゃる。それはそこをやる実行力・企画力の問題で、そういう職員を募集してみたらどうなのかなと思ったりするんですね。やっぱり千葉市のそれは、市が口を出せるのか、あるいは市がそれをやってくださったらなおいいのかとかいろいろ思ったりするんですけど、その部分にもっと食い込んで行かないと千葉は変わらないと私は思っています。

【神野委員長】

やはり財団の役割に対する期待が大きいということだと私は理解したんですけども、その財団がリードしていくためには、市が直接市民にっていうことも必要だとは思いますが、一番近いところにおいて、実際に事業を運営していくのはやっぱり財団なわけですよ。そうすると、やはりそこがどれだけアクティブに新しい面白いことをやれるような仕組みをもてるかということが問われていくと。それに関しても千葉市は関与していただきたいなというご提言だろうなと思います。それはもう我々としては期待するとしか言い様がないと思うんですけども、よろしく願いいたします。

【古川委員】

委員長に一つご質問なんですけど、千葉市内の施設で2つ例があるんですけど、音響の専門家が必ずいて、片方は実際にコンサートをやる時に全部一緒にいて見てくれる。もう片方は、これこれこうするんですよ、って教えっぱなしで帰ってしまう。これはそういう審査とかの部分で指導とかというのはできないんでしょうか。ちなみにこれは財団じゃありません。

【神野委員長】

項目の中でどう評価するかっていうところでの評価はできますよね。やはりこれも色々考え方があって、ものすごくわかりやすい照明のシステムにして、市民が自由にできる、っていうことを重視するっていう考え方もあるんでしょうし、この照明をより効果的に出演者の人たちに満足してもらうためにはプロの照明のスタッフがいるべきだっていう考え方もあるでしょうし、それは施設の審査をする上での基準として設定されていくっていうものだと思いますね。

【古川委員】

うちの会社で主催している事業なので、行ってる人間が体験している話なんですけど、悪い方は、実際にコンサートをやってるときにはいないわけですよ。ちょっとそれはどうなのっていうのもありますから、そういうのをちゃんとチェックできないことには直らないと思うんですけど。

【神野委員長】

おそらくそれに関してはひたすら苦情を言うべきだと思いますね。次に審査をするときに、その

項目は絶対入れなければならなくなると思うので。それは施設の基本理念というものを変えなきゃいけないということになるんですね。すべてそれはやってください、ということでは、到底それは危険でもあるし、十分な施設の活用ができないということ、いろんなところが声を上げていくということによって変えられるんじゃないかと思えますね。どっちが正解ってなかなか言えないんです。実際不具合があったということであれば、それは直接伝えていく、声をあげていくってということだと思いますね。

【早川副委員長】

技能っていうんですか、そういう照明だとか音響の技術力の差はあるにしても、今千葉市がやってる京葉銀行プラザにしても、財団が管理してるあそこのホールにしても、美浜にしても、専門の人がいるかわからないけど、専門の人を雇うお金は指定管理料の中に入ってますよね。だからむしろ、今おっしゃったように文句を言うってことですよね。言えないわけじゃないんですから、だからそういうことが一番大事だろうと。

【神野委員長】

使う側が声を上げていくのが一番。こういう使い方するものですよっていうことを割と唯々諾々と飲んできたのが日本の市民自治の悪しき側面なので、やっぱり声を上げていくっていうことによって、本当は市がいろいろ言うよりも、市民からの声で財団が変わっていくことの方が、多分本当は理想的だと思いますし、指定管理の方針だって、市民の側からいろいろ声が上がれば、それによってたぶん審査基準も変わっていくという事だと思います。声をあげていきましょう。

【古川委員】

ちなみに今のは財団ではないですからね。

【神野委員長】

そうですね、財団はやっぱりその職員を抱えてるので、割とそこ大事にしようというストーリーをちゃんと考えてきますね。

【古川委員】

別の指定管理者ですね。

【竹下委員】

先ほど資料6-1、「千葉市文化振興計画に係る総合評価」というのに解説をいただいて、平成20年度から25年度にかけて点数が伸びているのは、これはみなさんのご努力もあって、これはこれでいいわけです。いいっていうか、このまま伸ばしていただきたいってことなんですけども、点数が減ってるものはどうなのかということについてちょっとお聞きしたいと思うんですが、たとえば基本施策1の(2)③「文化を身近に感じられる景観づくり」というのは、どういうことを指しているのかよくわからないんですが、突然1に落ちているというのがありますね。それから基本施策2というところでは、(1)の③「文化芸術活動への参加促進」というのが1回2点入ったんですけれども、0点にまた落ちてきてい

ますし、それから基本施策3のところでは(1)②「伝統芸能を伝える取り組みの促進」というところで、これも1回2になりましたけどまた0に戻っているという。もうひとつありますが、基本施策4というところで、(1)②「市民と芸術家の交流の促進」というのが、しばらく点数が良かったんですが、これは0になってるという。こういうあたりですね、時間もありませんから、そんなに全部ご説明いただくなくても結構ですけど、たとえばこういうことについてはこういう理由が考えられるのではないかなというようにご説明をいただけないですか。

#### 【高石文化振興課長】

個々にこれは資料6-1に評価項目が載ってるんですけども、この内容にぶらさがる事業って言うのが、資料6-2というところで細かく示しております。個々の事業を判断していただくのが各所管課になるものですから、統一の基準では決していないところが、私どもとしては苦しい部分があります。あと1になってしまっているケースで、例えば申し上げると、予定されていたイベントが雨で流れてしまったとかというようなこともございますし、予算の関係で事業がなくなってしまった、というようなこともあるかと思えます。そういった積み上げを私どものほうで集計して、このような形にはなったところがございますので、全体としてはちょっと方向性が2だったものが1とかそういう風に下がっていくとかっていう部分は、どうしても出てきてしまうのかなというようにございます。

#### 【神野委員長】

たぶん明確に点数が落ちているのは、例えばその他の所管課で行われていた事業が、うちきりになったとか、例えば景観だと、都市景観市民フェスタ、これがなくなったんですかね。パラソルギャラリーはやってるけれども、これはそちらに比べれば地味であるという事で。多分そういうことがそれぞれの課の事業の中で起きているということですね。それが文化振興課のほうで全てを運営しているわけではないので、なかなかコントロールできない。計画はあるけれども、全部に影響力を持っているわけじゃないので、結果としてこれが現れましたとしか言いようがない部分もあるということですね。そこらへんも次期は課題になるのかなと思うんです。とりあえず総花的にいろんな項目を挙げていって、市全体の中でこの内容はここの所管課でやってますよね、っていう形で市全体の計画というのができあがっているけれども、文化芸術振興会議も、そこに直接の影響力を持っているわけではないですし、文化振興課も直接影響力を持っているわけじゃないので、結果として、評価は跳ね返ってくるけれども、非常に微妙な関係にあるという。そこにどうこの会議が、その内容に責任を負えるのかっていうことも含めて次期計画っていうのはちゃんと考えていかなきゃいけないのかなと。市として全体としては、こういうものをやってますよ、それに私たちはたしかにこれは位置づけられるね、って言うても、それを勝手に私たちの知らないところでやめられてしまっていたのでは、責任を負えないというところもあるので、そこらへんをどういう風に計画と、実際市がやっている事っていうのを関係づけて、私たちの責任というのを位置づけていくのかということも次期の計画ではちゃんと検討しなければいけないんじゃないかなと思います。他いかがでしょうか。

#### 【大澤委員】

次期計画についてなんですけれども、この市民に対する質問票があって、そこからまた何か新しいとこ

ろに持っていくと思うんですけども、この平成25年度で、昔表みたいなものをいただいて、7年計画でこの冊子が始まったんでしたっけ？7年計画の最終が来年度で、その先の目標を決めるためについてなんですよ。そのことで、東京オリンピックというのはどういう風にそれに位置づけるのか、きちんとそこに向かうとか、あるいはそれとは関係なくとかあるんでしょうか。

【高石文化振興課長】

現段階で具体的にということはなかなか言いづらいところはあるんですが、間違いなくオリンピックが近づくとつれて、文化施策を今9都県市でいろいろ会議を開いたりしておるところですので。そういった新しい文化施策が入ってくるということはあるんですが、ただ計画を作る段階では、それはまだ見えない状況ですので、それをどう概念的に書くか、ということにとどまるかなという風に思うんですが。

【大澤委員】

ただ、私の、市民の感覚ですけども、こんな機会はない、千葉市にとって、文化復興とかすべての意味で、活性化させるのにこの機会を使わない手は絶対ないわけなんですね。そこに明確に向かっていく何かをすると、お祭りとか何かっていうとバーッと盛り上がるのと一緒に、そこに向かってこれをやるんだっていう風になると、市民も盛り上がるし動きやすいし、そこに向かって一致団結して千葉市全部で行こうよっていう形で団体も動いてくれたらもっと大きな動きになるじゃないですか。たしかに行政として、とっておっしゃるその気持ちも非常によくわかるんですけども、ひとつさっき委員長さんがおっしゃったように、色々やるのがいっぱいあって、分散していったんなんとなく全体ができてるけど、平均値はあがってるけどなんとなく何やってるのか結構バラバラで、平均の2点だみたいな、そういうので終わるのではなく、ためしにっていうのも変ですけど、この東京オリンピックに向かって、これ一つをやっていった、千葉市をこういう風にしようよ、やろうよっていう目標を1個立てるってことも良いんじゃないかなという風に思うんですけども。

【高石文化振興課長】

なかなかズバツとお答えしづらいところはあるんですけども、おっしゃってる意味もよくわかりますし、何かしら当然、我々もイベント的なものになるのか、連携するような、東京が今いろいろ施策をやっていくと思いますし、その辺との連携を深めていくような形になるのか、その辺を今探っているというのが現状のところでございます。

【大澤委員】

連携はもちろん大切だと思うんですけど、引っ張っていくのも良いと思うんですよ。千葉市がね。スポーツは東京に任せる、千葉は芸術文化の部分で東京オリンピックを引っ張る、ぐらいいい感じで何かこう大きくもっていく。オリンピックっていうのは、ご存じだと思うんですけどスポーツの競技だけではなくて、もともとは芸術文化の競技で、そこにあとからスポーツが入ってきて、やはりスポーツは勝ち負けが出たりいろんなやりやすい部分があって、スポーツが今オリンピックのメインになってますけれども、前回のロンドンオリンピックでは、その前のオリンピックが終わってから4年間をかけて、芸術文化のオリンピックの土台として、イギリス全土で芸術文化の祭典を行って、最終的なセレモニーとし

てスポーツの祭典があった、っていう形で持ってって、東京でもやる形をとっていますよね。なので、東京オリンピックはロンドンオリンピックのような形でやるという風に国が方向を出しているので、その時に、以前の1964年の東京オリンピックの時は千葉も会場だったわけですから、本当にエリアとしては千葉も東京も一緒なわけで、その部分で、じゃあ東京はスポーツでっていうんであれば千葉は芸術文化でっていうような形で打ち出していく、できれば引っ張って行く。というのは、幕張エリア、あのエリアは本当にそういう会場として適している場所だと思うので、千葉市が本当にリードしてってもおかしくない、既存の施設で十分いろんなことができると思うので、そういったものを打ち出すことも、1項目でもいいので、こういうところに載せる、くらいの勢いはできないものでしょうか。

#### 【高石文化振興課長】

今お伺いしたような意見もふまえて施策の柱立てとかというのも考えて参りたいとは思っておりますので、またいろいろなご意見、アイデアがありましたら、教えていただければと思います。

#### 【神野委員長】

今大澤委員がおっしゃったこと、私が最初に実はあいさつで喋ってまして、注意をしなければならないのは、ロンドンの文化事業というのは、具体的な、社会的な課題というものと芸術をどのように組み合わせるのかということが明確に打ち出されていて、要はただ文化事業をやればいいというものではない。東京の文化発信プロジェクトっていうのは非常にその点で大きな問題を抱えていて、要は千葉市の状況と別の課題ですね、向こうはお金はいっぱいあるけれども、プレイヤーが少ない、というところで、非常に大きな問題を抱えていると思います。千葉市では財政ではとてもじゃないけど東京にはかなわないですから、やはり何か明確なものをしぼって、もしそこで打って出るならば何を打ち出していくのかということきちんと議論する。私も大澤委員と同様、やはり千葉市というのは顔がない、とよく言われます。千葉大学もよく言われますけれども、顔がない大学だ、と。要は総花的にはバランス取れていて優秀なんだけれども、個性がないよねと。その個性をどうやって作っていくのかというのは、もともとあったものを伸ばすのか、あるいは、もしないのであれば、そういう人たちが大勢来ってもらうような環境を作るのか、いろんなやり方があると思いますけれども、そこについても千葉はあまり肝が据わっていないと思います。これは県も市も両方とも同じだと思いますけれども。なので、千葉が文化芸術で本当にそこを大事だと思うのであるならば、そこをきちっと議論した上で、チャンスとして、機会として活かすものっていうのは、オリンピックでもなんでも他のものでもいいと思うんですけど、大澤委員おっしゃったように、東京オリンピックはたしかに大きな国家イベントになってくるので、それに乗ることは同時に危険性もはらみますけれども、検討するという事は非常に重要になってくる気はします。なので、何かを明文化することっていうのはなかなか現状では難しいかもしれませんが、この会議においては、その部分も含めて、千葉市の文化芸術施策をどういう風に推進していくのかということとあわせて、そのことも議論していくというような形でちょっと引き取らせていただければと思います。他いかがでしょうか。

#### 【大澤委員】

今のに加えて良いですか。結局それを行うにあたって、千葉市にはイオンとか大きな企業がいっぱいあ

るので、さっきのそのゼロだったメセナの方にできなかったことをそれですごく関連付けられると私は思っています。メセナへのアプローチですね。お願いします。

【早川副委員長】

イオンさんなんかはやってるんです。私はそこからお金もらって、グループで参画してるんですけど、たとえば、緑化、緑の木を植える、という活動。毎年あそこは申請すると審査してお金をくれてるんですよ。だから私もそこからもらって中国へ行って木を植えてるんで、それは何の意味があるんだってという批判もあるかも知れませんが、たとえばそういう風にいろんな文化活動やってますね。だからそういうものを束ねてやれば、0点なんてことは絶対ないって最初に言ったのはそういうことなんです。けっこうやってますから、それをもっとこ入れすれば、もっと良くなりますよ。イオンなんかどんどんそういう協力してくれるんです。

【神野委員長】

おそらく、行政が間に入るっていうことを好まないタイプの企業が増えてきてるんだと思います。例えば私が知ってる事例だとゾゾタウンなんかも、千葉大のデザイン経験系の卒業生たちのグループにお金を出して結構面白いことやってます。要は彼らは自分たちの目で評価して、この人たちに何かやらせたら面白いんじゃないかっていうことをやっぱやりたいんだと思うんですよ。今までではどちらかというと枠組み作ってお金集めて、そしてそれを公募してなにになに、っていう形だったと思うんですけど、たぶん彼らは自らユニークな活動にお金を出したいと思っていて、それが企業イメージに直接つながるんです。だからそうなってくると、おそらく市に求められることも、確かにつなげることも役割がないわけではないと思いますけれども、どこで何が行われているのかをアピールしていただくこと。要は千葉市ではこんなことが、こんな素敵なことがいっぱい起こってますよ、っていうことを宣伝するという役割、一番苦手なところだとおっしゃってましたけど、実はそこが重要になってくるんじゃないかなと思いますね。他いかがでしょうか。

【古川委員】

次の計画ということで、ちょっと感想なんですけれど、今回の総合評価の内訳表を見ますと、区民まつりとかも全部評価されていて、この中に文化芸術の部分があるからということで入っているんでしょうけれど、こういうことが全部入るという事は、言い方悪いですけど、それだけ縦割りになってしまう。要するに区民まつりは区がやっていることなので、文化芸術振興という中でくくると、ほとんどできない話になってしまいますし、方向として文化芸術というものをもう少し狭めて考えるべきなのか、それとも観光とか産業とかまで含めて大きな計画にするのか。正直、今の段階ってどちらかというと大きなくくりになっているがために、中途半端な面が出てくるという気もするので、はっきりとどちらかに分けた方がいいような気はしています。文化芸術というものは何かというのを決めるのは大変難しく、当然そこに観光とかって入ってくるのは自然なんですけど、千葉市くらいの大きさになってくると、かえって絞る手もあるのかなという気はするんですがいかがでしょうか。

【高石文化振興課長】

確かに今の計画は総花的に、分野横断的に、拾える事業は全部拾ってというような考え方で作ったものでございます。今お話しを伺って、今後また研究していかなければいけないテーマなのかなとは思ったところなんです、分野の絞り方とか、その辺を今後研究させていただいて、なるべく今のような総花的なものではなくて、漠然とではありますけども、少し特色のある計画になればいいなというように思っているところでございます。

【関委員】

千葉市っていうものを考えたときに、僕は埼玉出身で父が東京に通っていたサラリーマンなんですけれども、千葉も非常に東京に通っている人たちが多いと思うんですよね。毎日朝早く電車に乗って、遅くに帰ってきて、土日は遊びたい、土日は家でゆっくりしたいという人たちが多いと思うんですけれども、そういう人たちが、文化や芸術に対してどういう意識を持っているのかっていうこととこのことを知りたい。千葉市のなかでも、千葉で住んで千葉で働いている人もいらっしゃると思いますが、なかなか時間のない人たちも多い街だと思うんです。そういう通勤時間とかがあるために。その人たちにどうやって文化や芸術の意識を高めてもらえるかっていうこと、そういう人たちはどういう意識を持っているのかっていう事を僕としては知りたいなと思っています。やってるとは思うんですけども、これからの意識調査のところで。

【高石文化振興課長】

調査結果を今後まとめていくんですが、今おっしゃったような東京に通勤している方を特化して、というアンケートではないんですが、網羅的にサンプル数 2000 で依頼をかけて、戻りが 700 で、700 の中でどういう傾向があるのかというようなことを分析してまいりたいと思っています。一応通勤先もアンケート項目に入っているんで、分析はできます。

【関委員】

たとえば平日になかなか公演ができない、東京では平日にいっぱい公演が行われているのに、千葉ではなかなか平日に公演は行われないのは、明らかに時間がないんですよ。平日の夜に見るなんていう時間が全くない人たちが多いうことがあったりすると思うので、非常に、先ほどオリンピックの話もありましたけど、特徴として、どうしても東京は無視できない。そういう通ってる人たちもいるわけですし、文化芸術を見る時に、東京に行けばいいやと思っている人たちもいる。というところは非常にある話だと思いますので、その辺のことも意識をしてもらいたいなと思います。

【瀬崎委員】

昨年参加させていただいて、親子に音楽を届けたいっていう市民のアンケートがとても多かったと記憶しているんですけど、実際今高齢化社会にあって、千葉市のどの区に、どういう世代がどれくらいいるかっていうのによって、きっと文化振興の需要というか、求められるものの種類が違ってくるんじゃないかと思うので、そういう事も少し考慮しながら検討されてはいかがですか。

【高石文化振興課長】

年齢別に集計をすることでその辺り傾向は出てくるかとは思いますが、その辺り参考にさせていただきたいと思います。年齢だけの調査項目ではあるんですけども。

【関委員】

家族構成は大事だと思うんですけどね。

【大澤委員】

逆に言うと千葉市は今後、どういう世代に住んで欲しいのか、その目標を立てれば、どういう芸術文化を行っていけばいいかっていうのも出てくるかもしれない。若い世代に住んで欲しいければ、そういうようなものをいっぱいやれば住むようになります。結局福祉と一緒に、子どもたちの手当があると若い世代がそこに住むようになる。それも芸術文化でそういうこともできる可能性はありますよね。

【丸島生活文化スポーツ部長】

次の計画は5年計画で考えていますので、5年後の千葉市の文化芸術の在り方を想像して作る計画ですので、そこまでだと長いスパンで考えたほうが良いとは思いますが、その範囲内でそこまで考慮した計画を作るかどうか、っていう議論ですね。

【大澤委員】

でもこどもって成長がすごく早いんですよ。

【丸島生活文化スポーツ部長】

ですからそういう意見があれば、そういった方をターゲットにした計画づくりになって行くとは思いません。

【大澤委員】

子供がいると、即結果はでるっていうんですかね、逆に言うともね。

【早川副委員長】

街は生きてるってことを頭のなかに入れといてくださいよ。千葉市で一番最初に出来た大型住宅団地っていうのは大宮団地ですよ。それで今千葉市で一番高齢化率が高いのは大宮団地なんですよ。最初にそこに住みついて、子どもが生まれて子供が全部独立して外に出ちゃったから、老人しか残っていません。私はその近辺に住んでいるからよくわかるんですが、例えば老人施設に入っちゃうとか、お亡くなりになって、住宅が売りに出ると、そこに入ってくるのは若い人がきて、新しい子供が生まれてくれる。だから20年から30年くらいのサイクルで街は動いていますからね。そういったことも文化振興計画を地域別に考える時は、是非。これは先生の分野だから、今さらだと思いたんですけど。動いていますから、生きてるんですね。だからそういうこともどっか頭の中に入れといて。早いですよ、産まれた子はすぐ10歳くらいになっちゃいますからね。20年位のサイクルで動いていますから、今お年寄りばっか

りだけど20年くらい経ったらお年寄りがいなくなって小っちゃな子ばかりになっちゃうかもわからない。

【神野委員長】

たぶん移り変わるときに、昔の入れ物だとなじまない場合もあるので、その時にどういう文化的な環境を作っていくのかっていうことが多分課題になっていて、そのときに千葉はどっちかっていうと均一な空間がいろんなところに広がっていて、街としての面白さがちょっとないのが現実だと思うんですね。文化っていうのは、たとえばクラシックコンサートが開かれるとか絵画展が開かれるとかそういうことではなくて、さまざまなことに興味を持って、人と、例えば何か誰かがやったことに対して意見を交換するとか、そういうつながりが生まれてくようなところに文化が生まれてくと思うんですけども、残念ながらそういうつながりがあんまり重視されてなくて、点としてホールはある。こっちには美術館はある。けれども、じゃあそれが面的な広がりになるためにはどうしたらいいのかっていうところが残念ながら弱いと思うので、人が入れ替わっていくと副委員長おっしゃいましたけど、街づくりの施策とかそういうものとも、文化施策もうまくかみ合っていくと、子供はすぐに大きくなっていくよっていうところにあわせて、何か新しいことが始まっていく、実は気がついたら何か変わっていたってことになるかもしれない。たぶん市の施策の作り方は昔よりも、より難しくなっていると私は思います。同時に見ながら、戦略的にやっていくことが求められるのかなという気はしますね。

【早川副委員長】

この間、昔から知っているお医者さんが、病院を立て直したから見てくれっていうんで見に行ったんですが、場所は知ってるんですよ、何遍も行ってますから。これがないんですよ、リターンしてもないんですよ。これかな、と思ったら隣のよそのマンションだった。実はその隣にあって、後でそのデザインした設計士に聞いたら、南イタリアの別荘かなんかで、全然病院に見えないの。その中に診療室があったり、歯科診療があったり薬局があったり。だから全然違っちゃうんですね。病院ていうイメージじゃなくて。これは委員長の分野だと思うんですけど、街も変わってきますね。

【神野委員長】

そうですね、そういった関係性が変わっていくっていうことが起きていかないと多分人が減っていくので、関係性を強くしてほしくない、と思うんで、そのときにやっぱり文化のチカラっていうのは実はすごく重要になってくるはずですよ。なので、計画の中に、千葉の未来もふまえた上での内容が盛り込まれるようなものにできたらいいんじゃないかなという気はします。いかがでしょうか。かなり長時間にわたりいろいろな意見が出て非常に今日は実り多い時間だったと思いますけれども、いかがでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、大変長い時間委員の皆様にはお付き合いいただいて、ちょっと進行の方がつたないところもありまして申し訳ありませんでしたが、以上で議題2の方は占めさせていただきたいと思います。

議事としましては以上で全て終了ということになります。その他はとくにはないですか。

【高石文化振興課長】

ございません。

【竹下委員】

今後のスケジュールですけど、いつごろアンケート結果をいただけるとか、それに基づいてどういう審議がいつごろあるかというようなことについてちょっとお聞きしたいんですがどうですか。

【高石文化振興課長】

次はまだ正確な日程は決まっていないんですが、3月ぐらいに審議会を開きたいと思っております。それまでにアンケートをまとめて、事務局サイドでたたき台を一回作ります。それを見ていただいて、皆様からのご意見をそこにいろいろ付加させていく、という形で方向性を決めていければという風に考えておりますので、よろしくお願ひします。

【神野委員長】

アンケート結果はまとまり次第、委員の皆様にはお送りしていただいたりすることは可能ですか。

【高石文化振興課長】

分析に時間がかかってしまうので、結果だけ送って、果たしてどれぐらいそれが見やすいものなのかどうかってあたりが若干疑問はあるんですけども。

【神野委員長】

じゃあ分析の文言がある程度まとまったものはお手元にいただけるんですか。

【高石文化振興課長】

そうですね、それは多分次の審議会近くになってしまうかとは思いますが、事前にその辺の資料をお送りするようにいたしますので、それをまた見て頂いて、当日ご意見をいただくというようなことでお願ひできればと思います。

【神野委員長】

よろしくお願ひいたします。それでは多分2月か3月のあたまとかそれくらいになりますかね。じゃあ次回は3月を予定されているということです。それでは以上で本日の議事は終了したいと思います。それでは事務局の方にお返しいたします。